

信長探訪倶楽部 7月行事 安土城築城

長篠・設楽原の戦い（1575年）に勝利した信長は、早々に越前一向一揆討滅後、信忠に岐阜城を譲り、翌年、安土に築城を始めた。安土選定の理由は、領国経営の中心地であること、攻め上る上杉謙信の上洛を阻止すること、京都を抑えることのできる等が挙げられている。築城の間に柴田勝家・上杉謙信攻め、信忠・松永久秀攻め、羽柴秀吉・中国攻め、荒木村重・信長に背く、九鬼水軍・毛利水軍を破るなど慌ただしい。

そして1579年5月、安土城天主閣が完成をみることになる。天守ではなく天主である点が信長らしいとされる。今回、安土城跡を見学後、近くにある「信長の館」を再度見学。セビリア万博出展用に造られた天守閣の地上5階、6階分が展示されている。楽しめたのは、安土城のCGでこれは一見の価値があると思います。お奨めです。



7月8日(金)朝、市民センター前に集合した5人は1号線を西上、8号線に乗り換え2時間ちょっとで安土城跡に到着した。まず案内板を見る。



安土城も初めて来た時は、写真の大手道もただの山道でこれが安土城って感じだったけれど、こんな立派な数石の道だったのだ。まっすぐの大手道がいかに信長らしいのだ。



途中の休憩コーナーで座り込む5人であった。まだ先があるのだ。



杖をつきつき、汗をふきふき上ること数十分、ようやく本丸に近い黒金門の石垣が見えてきた。天主台は近いぞ。



天主台に到着。ここに地下1階、地上6階の天主閣が築かれたのだ。



標高199mの安土山の上に石垣を築き、さらにその上の高さ33mの木造天守閣はヨーロッパにもないほどの壮大さであったといわれる。



信長の新しい物好きは、宣教師の保護となり、安土城近くにセミナリヨを築くことになる。セミナリヨには舟でもこれるよう港跡が残る。

安土神学校（セミナリヨ）での生活

日課

4:30 起床
 5:00 ミサ聖祭、室の掃除
 6:00 ～ 7:30 勉強、ラテン語の学習
 7:30 ～ 9:00 宿題を教師に見せ注意を受ける（上級生が下級生を指導）
 9:00 ～ 11:00 食事、休憩
 11:00 ～ 14:00 日本語の学習、作文・習字など
 14:00 ～ 15:00 声楽・楽器の練習、休憩
 15:00 ～ 16:30 教師の指導によるラテン語学習
 16:30 ～ 17:00 自由時間
 17:00 ～ 19:00 食事、休憩
 19:00 ～ 20:00 ラテン語または日本語・ローマ字の学習
 20:00 一日の反省、夕の祈り 就寝

（※以上は、有馬でも共通）

- ・夏季、暑さの厳しい時には、勉強は中止して夏休みとする。
- ・毎年一回文化祭（日本語・ラテン語による劇、討論会など）

食事

日本食：主食・白米、汁、魚 他
 日曜祝日は一皿多く、他に果物がご馳走された。

服装

屋内では、青い木綿の袴子（かたびら。夏の服の着物）が着物。
 屋外では、青色の衣服と黒色の羽織を上に着用することが定められていた。外出時、面会時、青色の着物が他の色の服装。

資料：『信長に安土セミナリヨ』三原義二著 「安土・神学校（セミナリヨ）の遺跡」安土寺書

セミナリヨ跡には安土神学校での生活内容が分かる石碑がある。

